

# 第 41 回群馬緩和医療研究会

## プログラム

テーマ：切れ目のない連携を目指して

～病院、施設、在宅、それぞれの関わり方を教えてください～

日本医師会生涯教育講座認定（申請中）

カリキュラムコード：申請中

日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定（申請中）

日 時：2024年6月1日（土）13:00 ～ 17:30

会 場：高崎シティギャラリー（現地開催のみ）

群馬県高崎市高松町 35-1 TEL：027-328-3191

参加費：1,000 円（学生 500 円）

当番世話人：田中 俊行（独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター）

共 催：群馬緩和医療研究会・群馬県病院薬剤師会・塩野義製薬株式会社





### \*座長の方へ

恐れ入りますが、受付時に申し出ていただきますようお願い申し上げます。

### \*口演の方へ

PC (Windows のみ) によるスライド投影を行います。Microsoft Powerpoint で作成したスライドファイルを前日までにアップロードください。

塩野義製薬よりアップロードの際にアクセスいただく URL をお送りいたします。

当日、USB を用いたファイルの差し替えは不可です。

口演の発表時間は7分(時間厳守)、討議時間は3分です。

スライドの枚数に制限はありませんが、発表時間内に収まるように時間厳守でお願いします。

次の演者の方は次演者席にお座りください。

### \*薬剤師の先生方へ

群馬県病院薬剤師会から薬剤師の先生方への連絡です。

日本病院薬剤師会の日病薬病院薬学認定を取得される先生は以下をご確認ください。

1. 本講演会への参加と、レポート提出により日病薬病院薬学認定 区分無し(2 単位)の取得が可能です。なお、単位区分は申請時のもので日病薬での認定の際、変更になる場合もあります。
2. 日病薬病院薬学認定単位取得を希望する場合には、講演終了日を含めて3日以内にレポートを提出してください。レポートの提出先についてはグーグルフォームにて <https://forms.gle/Y6zEZJtrusyZvTvi7> からお願い致します。レポート作成に際し、事前にご自身の薬剤師登録番号をご確認ください。レポート提出の際に登録するメールアドレスは、事務局から連絡可能なメールアドレスを登録してください。なお、グーグルフォームで入力した項目については、認定単位取得目的以外には使用いたしません。

レポート提出用コード



**開会の辞 13:00～**

小川 哲史 (高崎総合医療センター 病院長)

**【セッション1 口演】 13:05～13:55 (発表7分、討論3分)**

<座長> 森田 廣樹 (森田クリニック 医師)

<座長> 羽鳥 裕美子 (高崎総合医療センター 看護師)

1. 「緩和ケアチームとリハビリテーションチームの連携によるがん患者のQOLの向上」  
群馬大学医学部附属病院 緩和ケアチーム  
○篠田静代、山田真紀子、藤平和吉、井上恵理子、矢島賢司、角田明美、金子結花、渡辺恵布、小平真弓、小川優依、関上里子
2. 「難治性腹水患者撲滅を目指したKM-CARTの取り組み」  
医療法人樹心会 角田病院  
○八木澤雄太、小林史往、村岡やす子、戸塚統
3. 「患者の願いと暮らしを支えた地域緩和ケア～看取り前日まで大好きなデイサービスに通った一例～」  
医療法人一步会 緩和ケア診療所・いっぽ  
○竹田果南
4. 「非専門的な立場で日常的に緩和医療に携わる外科医が、自分の父親をがんで看取った経験を振り返って ～振り返ってみればがんで逝けて良かった～」  
  
○戸塚統
5. 「終末期がん患者におけるCOVID-19感染後の動向」  
伊勢崎市民病院 緩和ケア内科  
○押本直子

**【休憩5分】 13:55～14:00**

**【セッション2 口演】 14:00～14:50 (発表7分、討論3分)**

<座長> 藤平 和吉 (利根中央病院 医師)

<座長> 清原 文 (高崎総合医療センター 看護師)

1. 「当院緩和ケア科に入院した患者のヒヤリハット集計から見えてきたもの」  
二之沢病院 <sup>1</sup>看護部、<sup>2</sup>緩和ケア科  
○清水捺美<sup>1</sup>、竹澤美和子<sup>1</sup>、高橋みどり<sup>1</sup>、三島理絵<sup>1</sup>、高橋有我<sup>2</sup>

2. 「地域の保健室」の取り組みと経過、今後の課題  
医療法人一步会 緩和ケア診療所・いっぽ  
○福田元子、竹田果南
3. 「地域の緩和ケア連携の取り組み 前橋日赤緩和ケア連携の会の立ち上げ」  
前橋赤十字病院、<sup>1</sup>外科、<sup>2</sup>がん看護専門看護師  
○黒崎亮<sup>1</sup>、今井洋子<sup>2</sup>
4. 「当院における緩和医療の現状～切れ目のない包括診療を目指して～」  
医療法人樹心会 角田病院  
○村岡やす子、齊藤しのぶ、遠山富士子、戸塚 統
5. 「がん哲学外来 なごみカフェ」の活動報告  
伊勢崎市民病院、<sup>1</sup>緩和ケア内科、<sup>2</sup>外科、<sup>3</sup>一般社団法人がん哲学外来認定コーディネーター  
○廣野正法<sup>1</sup>、片山和久<sup>2</sup>、塚本恵美子<sup>3</sup>

**【休憩・移動 10 分】 14:50～15:00**

**【ポスター発表】 ①、②、③同時進行 15:00～15:50**

**【ポスター発表①】**

<座長> 高田 美和子 (高崎総合医療センター 看護師)

1. 「PTGBD チューブを挿入中の在宅療養者に対する、PTGBD チューブ管理方法の統一化を目指した地域連携」  
原町赤十字訪問看護ステーション  
○佐藤明美、齊藤彩水、角田千里、山崎千寿子、剣持君代、矢嶋麻美、栗原敦子、笹本肇
2. 「任意後見人として看取りを経験して考えたこと」  
一般社団法人 安寿 在宅看護センター華佳  
○高橋佳子
3. 「重層的支援対象者となった親子との関わり - 病院としてできる支援について考える -」  
桐生厚生総合病院 地域医療連携室  
○五十嵐千代子、岡田牧子
4. 「スピリチュアルペインを抱えた終末期がん患者への看護支援—村田理論を活用して—」  
桐生厚生総合病院  
○荒川浩

5. 「意思決定支援は新たな生の再構成を支えることである～対話（dialogue）という仕方で～」  
さいたま赤十字病院 緩和ケアセンター  
○原 敬、野澤やよい、高橋真理子

### 【ポスター発表②】

<座長> 山田 拓哉（高崎総合医療センター 医療ソーシャルワーカー）

1. 「SNS（チャットワーク）を用いた他職種連携～在宅で看取った小児白血病の1例～」  
医療法人あい友会 あい太田クリニック  
○芳賀紀裕、前野有理、木村和恵、長田由美子、柴田敏隆、野末睦
2. 「AYA世代だからこそつながりたい！－AYA世代のがんサロン G-AYA カフェをサポートする立場より－」  
<sup>1</sup>群馬大学医学部附属病院、<sup>2</sup>G-AYA 代表、<sup>3</sup>G-AYA 前代表・ジョイフル心理相談室、<sup>4</sup>前群馬大学医学部附属病院・現神奈川県立保健福祉大学、<sup>5</sup>伊勢崎市民病院  
○角田明美<sup>1</sup>、慶原凌大<sup>2</sup>、佐藤友哉<sup>3</sup>、高山千春<sup>4</sup>、片山和久<sup>5</sup>
3. がんサロン「ほっとさろん・たかさき」の活動報告  
高崎総合医療センター 患者サポートセンター  
○長島春香、櫻井史子
4. 「がん診療連携拠点病院の連携：緩和ケアチーム研修による緩和ケア質向上の取り組みについて」  
群馬大学医学部附属病院 <sup>1</sup>腫瘍センター、<sup>2</sup>緩和ケアセンター、<sup>3</sup>薬剤部、群馬大学大学院医学系研究科 <sup>4</sup>腫瘍内科学、<sup>5</sup>麻酔神経科学  
○山田真紀子<sup>1</sup>、篠田静代<sup>2</sup>、角田明美<sup>2</sup>、勝見重昭<sup>3</sup>、高張大亮<sup>1,2,4</sup>、齋藤繁<sup>5</sup>
5. 「緩和ケアリンクナースの質向上のための緩和ケアチームとしての取り組み」  
独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 緩和ケアチーム会  
○丸山広貴

### 【ポスター発表③】

<座長> 田中 里佳（高崎総合医療センター 薬剤師）

1. 「病院薬剤師が関わった在宅緩和ケア三症例」  
公立富岡総合病院 <sup>1</sup>薬剤部、<sup>2</sup>診療部、<sup>3</sup>看護部、<sup>4</sup>緩和ケアチーム  
小阿瀬和江<sup>1,4</sup>、塩野昭彦<sup>2,4</sup>、小池瞬<sup>3,4</sup>、齋藤綾<sup>3,4</sup>

2. 「当院における術後疼痛管理チーム（APS チーム）活動について」  
高崎総合医療センター<sup>1</sup>薬剤部、<sup>2</sup>疼痛緩和内科、<sup>3</sup>麻酔科、<sup>4</sup>看護部、<sup>5</sup>栄養管理室、<sup>6</sup>院長  
○田中美香<sup>1</sup>、田中俊行<sup>2</sup>、柳田浩義<sup>3</sup>、松井雄太<sup>1</sup>、平野 泉<sup>4</sup>、星野貴泰<sup>4</sup>、島田明美<sup>4</sup>、  
荒川麻由子<sup>4</sup>、松下圭太<sup>4</sup>、富岡つかさ<sup>4</sup>、高見澤沙姫<sup>4</sup>、青木緩美<sup>5</sup>、金森功次<sup>5</sup>、阿部佑希乃<sup>5</sup>、  
近野健一<sup>1</sup>、小川哲史<sup>6</sup>
3. 「外来化学療法を行う患者の抱える苦痛の実態—つらさの間診票の活用方法の検討—」  
高崎総合医療センター 看護部  
○清原文、羽鳥裕美子、長島春香、丸山広貴、櫻井史子、荒井しのぶ
4. 「切れ目のない連携を目指して～緩和的放射線治療における紹介活性化の工夫～」  
高崎総合医療センター  
○永島潤
5. 「大量オピオイド使用を要した難治性疼痛の4症例の検討」  
桐生厚生総合病院<sup>1</sup>乳腺外科、<sup>2</sup>外科、<sup>3</sup>泌尿器科、<sup>4</sup>看護部、<sup>5</sup>薬剤部  
○森下亜希子<sup>1,2</sup>、木村明春<sup>2</sup>、岡本亘平<sup>3</sup>、荒川浩<sup>4</sup>、五十嵐千代子<sup>4</sup>、栗原麻奈美<sup>5</sup>

**【休憩・移動 20 分】 15 : 50～16 : 10**

**【セッション4 能登半島支援についての講演】 16 : 10～16 : 25**

「被災地で支援者として関わること～現地の声から感じたこと～」

<座長> 石井 あかね （高崎総合医療センター 臨床心理士）

<演者> 矢島 賢司 （群馬大学医学部附属病院 リハビリテーション部 医師）

**【休憩 10 分】 16 : 25～16 : 35**

**【セッション5 座談会】 16:35～17:20**

<テーマ> 切れ目のない連携を目指して  
～病院、施設、在宅、それぞれの工夫を教えてください！～

昨今、「家で過ごしたい」「施設でお世話になる」など、どこでどのように過ごすか、連携の重要性が指摘されています。しかし、その一方で、連携の難しさも浮き彫りとなっています。病院、施設、在宅、それぞれの立場で、連携に工夫されている点があるでしょうか。工夫されている点について、「連携をテーマにした座談会」で共有したいと考えています。

<座長>

田中 俊行（高崎総合医療センター 医師）

大川 友子（高崎総合医療センター 医療ソーシャルワーカー）

<座談会出席者（順不同）>

芳賀 紀裕（医療法人あい友会 あい太田クリニック 医師）

笹本 肇（原町赤十字病院 医師）

落合翼（渋川医療センター 医療ソーシャルワーカー）

反町 利恵（在宅福祉かんわケア大地 看護師）

原田由紀（じゃんけんぽん地域生活支援室管理者 主任介護支援専門員）

総括

渋川医療センター 齋藤 龍生

次回開催案内

原町赤十字病院 笹本 肇

閉会の辞

高崎総合医療センター 田中 俊行